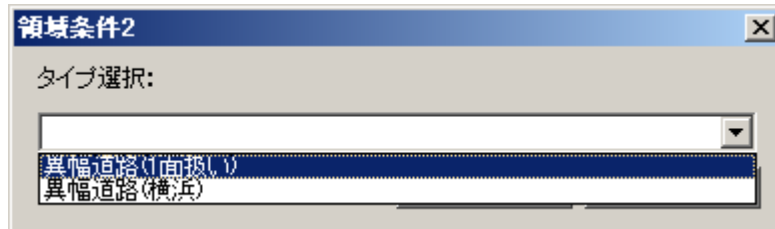


- 領域条件 1 では指定できない特殊な回りこみ及び取扱による適合建築物の生成を行います。

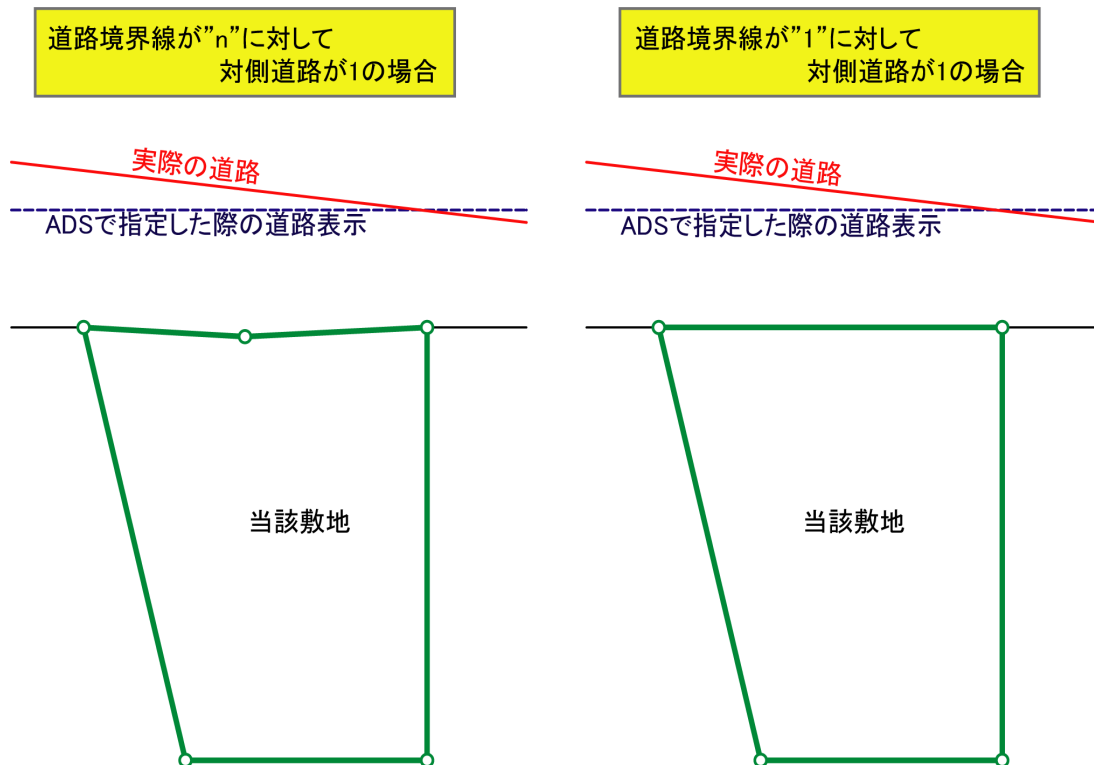
[基本的な操作の流れ]

予め該当する領域を表示させておき、「領域条件 2」を選択してから、最初に表示されるリストボックスより、設定したい項目を選択し、その後表示されるDLGで設定します。



1) 異幅道路(1面扱い)

- 道路境界線の両端で幅員が異なる場合に、道路斜線を1面道路として扱う場合の領域設定を行います。
- 扱える接道パターンは、以下の通りです。
- 実際の道路線は、予め補助線で編集(DXF経由)しておく操作简单です。
- ここで設定された領域は任意領域として保存されます。
- 生成される測定ポイントは、“与条件編集/境界線条件”の“道路高さ”に依存します。



異幅道路(1面扱い)

境界線No: 3-3

建物後退距離: 2.000 m

幅員(始点): 5.000000 m

幅員(終点): 5.000000 m

最大ピッチ: 2.500 m

最小幅員の1/2で計算

前面計画建築物を考慮

作図線を表示

道路境界指定

基準線指定

[適合]端点処理

始点: 延長 0.000 m

終点: 延長 0.000 m

[測定点]端点処理

始点: 適合 0.000 m

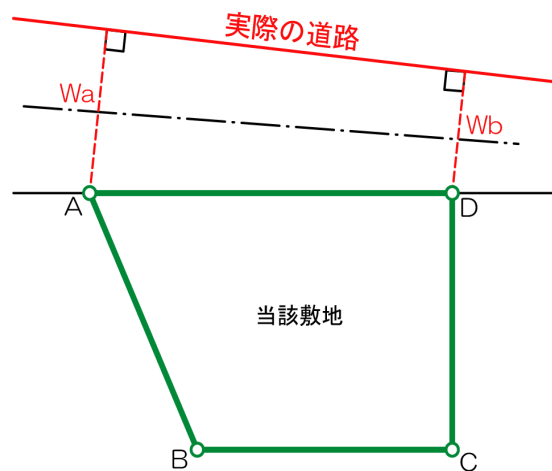
終点: 適合 0.000 m

OK

キャンセル

[操作手順]

- ① [基準線指定]を選択し、平面WINDOWより補助線登録された線(実際の道路線)を選択します。
補助線登録された線が無い場合は、右図のWa及びWbの距離を“幅員(始点)”及び“幅員(終点)”で数値入力します。
- ② [適合]端点処理又は[測定点]端点処理で回り込みの設定を行います。
状況に応じて指定します。指定方法は、「領域条件1」の“領域条件パターン”を参照してください。
- ③ 別の道路境界線も合わせる場合は、「道路境界指定」を選択し、該当する道路境界線を選択します。
選択を終了する場合は右クリックします。選択を間違った場合は、もう一度選択すると解除されます。
※該当する道路境界線が一つの場合は、設定する必要はありません。
- ④ 「OK」を選択します。
- ⑤ 設定された領域が“任意領域”として作成されます。



[任意領域とは?]

ADSFamilY における天空率モードでは、通常システム内で認識された領域を自動的に生成します。(領域No 隣に表示されている“自動”が目印、以降→自動領域)。Ver6 より汎用的な利用を目的として、任意領域を独自に作成することができるようになってきました。(領域No 隣に表示されている“任意”が目印)
この領域条件2で生成された領域は、必ず任意領域として新規に作成されます。

[注意事項]

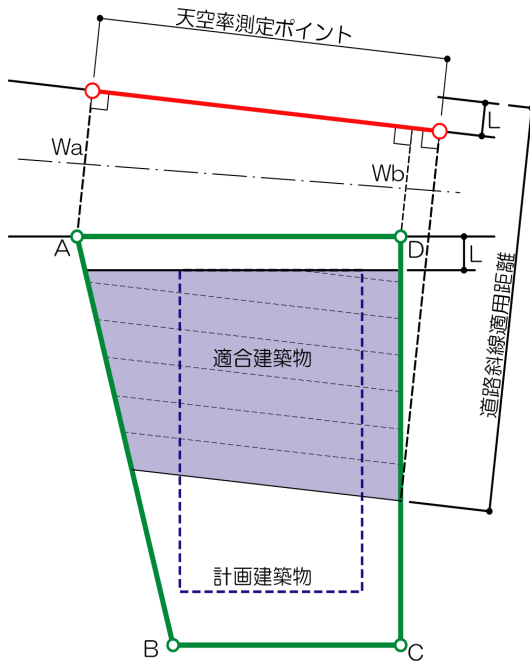
従って、通常表示される自動領域は不要になりますので、予め領域の存在を無くすことが必要になります。自動領域の削除はできませんが、“領域条件1”のDLG下に表示されている、“測定点番号表示”のチェックボックスを外すことにより、測定点の情報は表示しますが、測定点のナンバーが OFF となり、印刷時にノートされるようになってきます。

- **建物後退距離**
 - ・ 適合建築物の後退距離を設定します。
 - ・ 複数の道路境界線が指定されている場合は、この数値の後退距離で適合建築物が一括生成されます。
 - ・ 予め自動認識されている数値以外の場合は、ここで数値入力します。
- **幅員(始点)**
 - ・ 選択された道路境界線の始点(反時計回りで見た際の手前のポイント)側の幅員を指定します。
 - ・ 指定する幅員は、反対側道路境界から垂直に見た距離となります。(前頁のWa又はWbを参照)
 - ・ 「基準線指定」で線分を指定した場合は、自動的に数値が表示されます。
- **幅員(終点)**
 - ・ 選択された道路境界線の終点(反時計回りで見た際の奥のポイント)側の幅員を指定します。
 - ・ 指定する幅員は、反対側道路境界から垂直に見た距離となります。(前頁のWa又はWbを参照)
 - ・ 「基準線指定」で線分を指定した場合は、自動的に数値が表示されます。
- **最大ピッチ**
 - ・ 測定ポイントの最大ピッチを指定します。
 - ・ 「最小幅員の 1/2 で計算」がチェックされている場合は、選択できません。
- **最小幅員の 1/2 で計算**
 - ・ 測定ポイントのピッチを幅員(始点又は終点)の狭い方の 1/2 で配置する場合にチェックします。
 - ・ デフォルトはチェックされています。
- **前面計画建築物を考慮**
 - ・ 建物後退距離よりも前面に計画建築物が存在する場合はチェックします。
- **作図線を表示**
 - ・ 「基準線指定」時に作図線を利用する場合は、予めチェックします。
- **道路境界指定**
 - ・ 複数の道路境界線を指定する際に選択します。
 - ・ 平面WINDOWで左クリックを選択し、終了したら右クリックします。
- **基準線指定**
 - ・ 基準線(道路反対側の線、道路斜線の基準となる線)を選択します。
 - ・ 基準線は、補助線又は作図線のみ指定可能です。
 - ・ 基準線は、1本(直線)のみ選択可能です。
- **[適合]端点処理**
 - ・ 適合建築物の端部の処理を行います。
 - ・ 設定方法は、「領域設定 1」と同じです。
- **[測定点]端点処理**
 - ・ 測定ポイントの端部の処理を行います。

[端点処理設定方法]

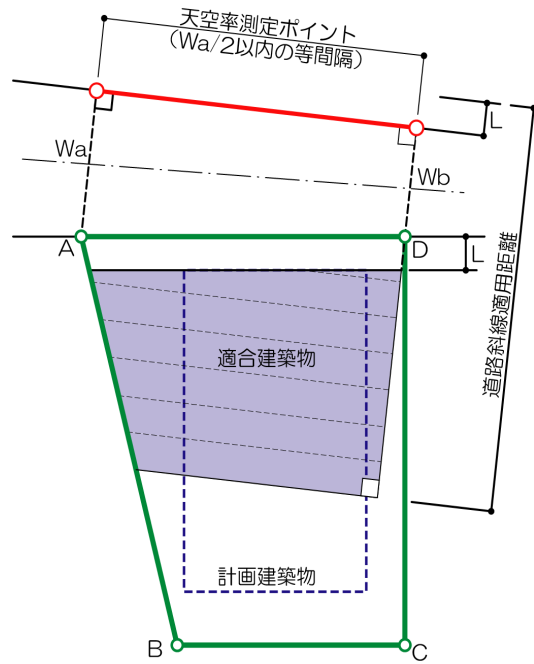
回り込みを“考慮する”場合

- [適合]端点処理
 ■始点 → 延長
 ■終点 → 延長
- [測定点]端点処理
 ■始点 → 適合
 ■終点 → 境界線



回り込みを“考慮しない”場合

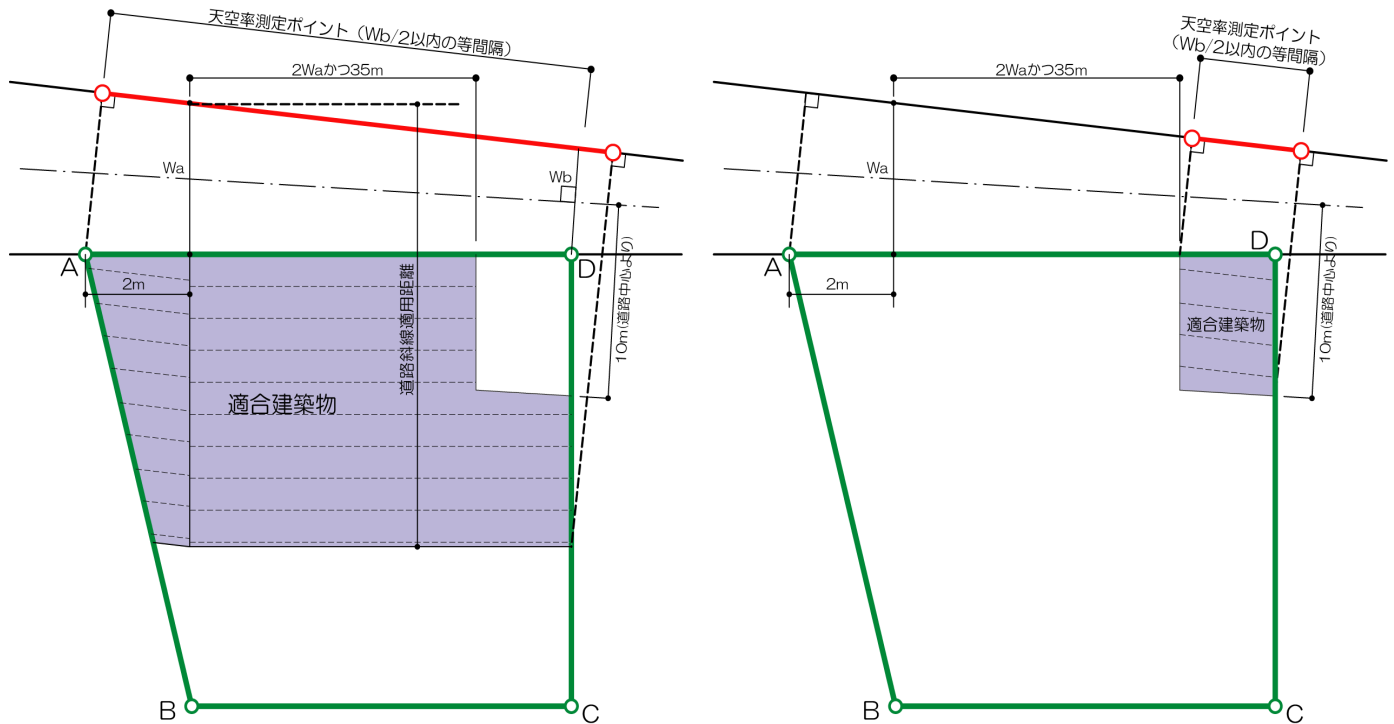
- [適合]端点処理
 ■始点 → 境界線
 ■終点 → 境界線
- [測定点]端点処理
 ■始点 → 境界線(又は適合)
 ■終点 → 境界線



※Wa及びWbは、ADSで入力する道路幅員(“基準線指定”で反対側道路線を選択する場合は自動認識)

2) 異幅道路(横浜)

- 横浜市内で扱われている2面道路扱いの設定を行います。
- 生成される測定ポイントは、“与条件編集/境界線条件”の“道路高さ”に依存します。



異幅道路(横浜)

境界線No:

建物後退距離: m

幅員(始点): m

幅員(終点): m

前面計画建築物を考慮

作図線を表示

[適合]端点処理

始点	終点
延長	延長
<input type="text" value="0.000"/> m	<input type="text" value="0.000"/> m

[測定点]端点処理

始点	終点
適合	適合
<input type="text" value="0.000"/> m	<input type="text" value="0.000"/> m

[操作手順]

- ① [基準線指定]を選択し、平面WINDOWより補助線登録された線(実際の道路線)を選択します。
補助線登録された線が無い場合は、右図のWa及びWbの距離を“幅員(始点)”及び“幅員(終点)”で数値入力します。
- ② [適合]端点処理又は[測定点]端点処理で回り込みの設定を行います。
状況に応じて指定します。指定方法は、「領域条件1」の“領域条件パターン”を参照してください。
- ③ 「OK」を選択します。
- ④ 設定された領域が“任意領域”として作成されます。(上図の2領域が生成される)